no.26 2016

日本聖心同窓会
JASHだより
Japan Alumnae Association of the Sacred Heart

JASH名誉会長挨拶

聖心会
日本管区
管区長
シスター
新庄 美重子
（み47、宮16）

教皇フランシスコは二〇一五年十二月八日から二〇一六年十一月二十日までを「いつくしみの特別聖年」と定められ、「イエスキリストは御父のいつくしみのみ顔です」といわれました。これはこの「JASHだより」に掲載されるAMASCのテーマ「ソフィの遺産～聖マグダレナ・ソフィアの遺されたもの～」に繋がるものだと思います。聖マグダレナ・ソフィアはイエスのみこころ、即ち神の心は愛であること、いつくしみであることを伝えたいと願いました。ですから、聖心に学んだ者は、神のいつくしみを認め、それを伝える使命を共に担っています。

世界はいつくしみを渇望しています。グローバル化が進む中、世界は繋がろうとしていますがマイナスの現象―格差、排除、貧困、暴力等―様々な問題が深刻化しています。特に、昨年は、テロ、難民の問題に世界中が驚愕した年でした。「誰も神のいつくしみから排除されることはないのです」（教皇フランシスコ）との呼びかけが、居場所のない難民、暴力に脅かされている人びとに届き、彼らが神のいつくしみに触れるようにと祈らずにはいられません。

昨年はまた、戦後七十年として日本のカトリック教会も平和への願いを強め、平和のために働く決意を新たにした年でもありました。教皇は世界平和の日のメッセージにおいて平和をいつくしみの特別聖年のしるしと述べておられます。平和はいつくしみと愛の実りです。「平和は神のたまものですがそのたまものは平和を実現させるよう招かれているすべての人に委ねられているのです。」

私たちはまず、神のいつくしみを悟れるよう願い求め、それを、おこないをもって、まわりの人びとに分かち合っていくことから始めたいものです。苦しむ人、悩む人に近づく小さな努力が全ての人に居場所のある世界を築いていくことに繋がることを信じたいと思います。Think globally, act locallyという名言は「無関心に打ち勝ち、平和を獲得する」という平和の日のメッセージを生きるためのよすがとなります。

今年、聖心会では八年ごとの総会が開かれます。これは、創立者の時から定期的に行われているもので、その時代時代に創立の精神をどのように生きていくかを共に探るためのものです。「ソフィの遺産～聖マグダレナ・ソフィアの遺されたもの～」を未来に繋げるために、今回の総会のテーマは「命の展開：これから生まれる未来にむけての使命」というものです。来年の「JASHだより」では、この総会についてお知らせできると思います。

第16回 AMASC世界大会

次回のAMASC世界大会は、2018年メキシコのメリダで開催されます。

AMASC
World Congress
México

JASH Website

JASHに関する情報をいち早く掲載しています。ぜひご覧ください。

URL: http://www.jash316.com/

JASH会長挨拶

日本聖心
同窓会会長
中山 洋子
（み51）

ＪＡＳＨとＡＭＡＳＣのより広範な周知を目指して「ＪＡＳＨだより」第一号が発行されてから二十五年。白黒モノトーンで活字主体の一号から、写真・イラストの登場、近年のカラーページの導入など、その時々に携わった役員や編集委員の、限りある財源の中で読者に興味を持って読んでいただける広報誌をとの思いを受け継ぎ、ここに二〇一五年度第二十六号をお届けいたします。

二〇一四年十一月、アメリカ・アリゾナ州開催の第十五回ＡＭＡＳＣ世界大会で承認されたメキシコのマリサ・デ・マルチェル会長は、就任時に四年の任期の目標とした、聖心会とのより密接な連携と、ＡＭＡＳＣの明日を託す若い世代の取込みの実現に動き始めております。春には、世界各国の聖心系列校卒業の十八歳～三十歳の若者を対象にアンケート調査を実施、その結果を踏まえてヤングメンバーによる少人数の会を開き、若者ネットワークの核の形成を目指したいと連絡がありました。

昨年十月、ＪＡＳＨではＡＭＡＳＣ新執行部の掲げるテーマ「ソフィの遺産、世界への贈り物～聖マグダレナ・ソフィアの遺されたもの～」に沿って恒例のスタディグループを立ち上げました。各会を代表するメンバーが集まり、その中には若い同窓生の顔も見え、二年後にメキシコのメリダで開催される第十六回ＡＭＡＳＣ世界大会に向けて、今回はどのような活動が行われるか楽しみにしております。

新テーマについて更に考えを深める手立てとして、ＡＭＡＳＣ東京大会記念基金委員会主催の「ＪＡＳＨヤング・アラムネの集い」では同窓生で絵本作家の児島なおみさん（み54）に日本の聖心に学ぶ生徒のために書かれた創立者の絵本「聖マグダレナソフィア・バラ」について、また、二〇一五年度を締め括る第三十回「ＪＡＳＨの日」には京都大学大学院で研究を続けられる若い同窓生山内由賀さん（小77、宮59）に十九世紀のフランスの女子教育とその背景について、講演をお願いいたしました。いずれも今号に講演要旨を掲載しております。ぜひご覧ください。

来る三月に開催予定の二〇一六年度「ＪＡＳＨの日」にはメキシコからマルチェルＡＭＡＳＣ会長の来日が決定しており、合わせて韓国・台湾・インド・フィリピンの同窓会にも参加を呼び掛け、小規模なアジアの集いとできればと考えております。来賓の歓迎に、又その準備に、皆様のご協力をお願いいたします。ＪＡＳＨ会員の皆様、この一年もよろしくお願い申し上げます。

海外「日本聖心同窓会（JASH）会員の集い」

世界各地に聖心の同窓生が暮らし、地域ごとにグループを作って親睦を深め、助け合っています。その中でも、下記の地域には、「JASH会員の集い」があり、JASHはグループの代表者の連絡先を管理しています。　また、宮代会海外支部（シンガポール、ワシントン、南カリフォルニア）でも、JASH会員が一緒に活動しています。

各地域の活動を簡単に紹介します。

聖マグダレナ・ソフィア・バラの没後150周年にあたる2015年秋、パリでは、ご生家のあるジュワニーへの遠足を行いました。昼食をご生家の食堂でシスター方とご一緒し、子どもも含めた15名の参加者が楽しい一日を過ごしました。

アメリカでは、偶然にも11月1日に、シカゴとニューヨークでそれぞれ親睦昼食会が開かれました。シカゴの昼食会にはインディアナ州やウイスコンシン州から長時間運転して参加された方もいらしたとのこと。

また、ニューヨークの親睦会には、50年に亘り日本で活躍されたSr. Gwen Hoeffelをお迎えし、ロンドン、東京から訪問していた同窓生も含めて約30名が出席しました。

英国の親睦会は、同窓生のお一人伊藤恵子様が、見事に書き上げられた英語の長編小説「My Shanghai 1942-1946」の出版を記念しての講話と昼食会が、11月30日に行われ、多くの出席者がありました。

サンフランシスコ・ベイエリアは80名以上の同窓生が登録し、2009年に約20年ぶりに親睦会を開いて以来、アサートンの聖心会修道院の訪問や琴の演奏会など、毎年趣向を凝らした親睦会をおこなっています。2014年のAMASCアリゾナ大会には5名のメンバーが参加しました。

※詳しい活動報告は、JASHウェブサイトに掲載しています。

海外「JASH会員の集い」の所在地	
アメリカ合衆国	ニューヨーク
	サンフランシスコ／ベイエリア
	シカゴ NEW
英国	
フランス	パリ
ドイツ NEW	
オーストラリア	シドニー

※海外生活を始める方は、是非JASHにお問い合わせください。代表者の連絡先をお知らせします。

※上記以外の地域で活動されている同窓生のグループがありましたら、JASHにご登録ください。「JASHだより」やJASHウェブサイトで、グループの存在をJASH会員に広くお知らせし、渡航される同窓生との橋渡しをします。

委員会報告

ホスピタリティー委員会

JASH
ホスピタリティー
委員会委員長
芝本 久美子
（み59、宮28）

ホスピタリティー委員会はＡＭＡＳＣホスピタリティーネットワークの一翼を担い、現在四名の委員が多くの方々のご協力の元、国内外のＪＡＳＨ会員ＡＭＡＳＣ関係者のご要望に対応すべく活動をしております。

二〇一五年度は、今後のホスピタリティー委員会の役割について多くの話し合いが行われました。特に二〇二〇年のオリンピックも見据えて、海外のＡＭＡＳＣ関係者からのご要望への対応については、ＪＡＳＨ役員も交えてのミーティングも行いました。

また、広くご意見を取り入れるべく、現在ボランティア希望者リストに登録済みの方々へのアンケートも実施致しました。

この他三月の「ＪＡＳＨの日」の茶話会の準備を担当し、ボランティアの方々に多大なご協力を頂き、会員の皆様が笑顔で旧交を深める楽しいひと時をご一緒することが出来ました。

今後もホスピタリティー委員会が聖心スピリットを大切にして、会員の皆様と共に活動できますようご協力をお願い申し上げます。

ＡＭＡＳＣ東京大会記念基金委員会

AMASC東京大会
記念基金委員会
委員長
三冨 久美子
（み55、宮24）

一九八六年第八回ＡＭＡＳＣ東京大会の後、大会のための貴重なご寄付の剰余金を基金として発足した当委員会は今日まで三十年の月日をその目的のために活動してきました。目的とは若い同窓生の世界に繋がる母校への誇りを育み、同窓会への理解を育成することです。様々な試みを行い、四年毎に開催されるＡＭＡＳＣ大会へ可能な限り数名ずつの若い同窓生の参加をサポートしてきました。

二〇一八年メキシコ・メリダ大会にも若い同窓生を送り込みたいと準備を始めています。昨年十月三十一日には恒例の「ＪＡＳＨヤングアラムネの集い」を開催いたしました。今回のＡＭＡＳＣ大会のテーマ「ソフィの遺産、世界への贈り物～聖マグダレナ・ソフィアの遺されたもの～」をうけて卒業生であり絵本作家の児島なおみさん（み54）のお話を伺い、創立者の原点に触れ、有意義な時間をヤングアラムネの方々と共有いたしました。

昨年度より若い委員が増え、新しい形の委員会が動き始めました。委員一同、時代とともに歩む委員会を目指しています。どうぞこれからも当委員会の活動を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

ＪＡＳＨ資料委員会

JASH
資料委員会
委員長
山本 旬子
（真4）

二〇一五年当委員会は、二十五周年を迎え発足当時のビジョンを維持し、また新たなニーズに応え時代とともに変化するように存在意義を再考する時となりました。委員会内では資料保管環境改善のためスチール製書庫と桐ケースなどを設置、画像編集の向上のために新しいパソコンを購入致しました。二十年の歳月をかけました写真整理も一段落し書籍に続きデータベース入力作業を進めてまいりました。四月聖心会総本部シスターMargaret Phelanが来学、シスター新庄、シスター堀口、シスター景山とともに資料委員会保管庫の展示をご覧頂きました。八月大学オープンキャンパスへの初期制服の貸し出し、通年写真資料の協力を致しました。九月から二つの大型展示を依頼頂き準備作業を進め三月「ＪＡＳＨの日」に展示をご覧頂きました。四月には初めての試みと致しまして専門学校「ありがとう英語科の日」イベントで展示をする予定でございます。大学、各姉妹校への協力をさせて頂きＪＡＳＨ統合同窓会の委員会として相互協力の大切さ、聖心は一つとの想いを強めました。今後とも資料委員会に皆様のご協力、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

資料委員会の刊行物

年表「日本国内聖心女子学院の歩み」
2008年改訂版 1冊1,500円

「語りつぐこと」第1集、第2集
1冊700円（郵送の場合は1冊1,000円）

お申込み・お問い合わせはFAX、JASHウェブサイトで日本聖心同窓会JASH資料委員会まで
（宮代会館への電話でのお問い合わせはご遠慮ください）

AMASCウェブサイト

AMASC執行部からの最新の情報のほか、
世界各地の同窓会の活動がわかる
Newslettersや、
世界の姉妹校の所在地など、
幅広い情報が掲載されています。

URL **http://www.amasc-sacrecoeur.org/**

AMASCウェブサイトへは、JASHウェブサイトからもアクセスできます。

同窓会報告

茂仁香会

茂仁香会
会長
浦 伸子
（茂7、宮29）

本年度は茂仁香会総会での引き継ぎ以降役員が少ない中での出発でしたが、皆が兼任してカバーし、精一杯しかも楽しみながら九月実施の友愛セール参加の準備をし、目標を達成することが出来ました。それには役員以外にも多くの方々の御助力があり、感謝の気持ちで一杯です。世相を反映して、コミュニケーションツールが進化している現状に追随し、労働力や経費の節約の為にも今後会員への連絡等をメルアド・SNS等で出来るように徐々に変更していく必要があり、実際に今取組んでいる所であります。活動を振り返るとどこで聖心出身の方々とお逢いしましても一瞬で波長が合ったような錯覚に陥るくらいの、何か家族的な柔和な気持ちになる事が出来るのが同窓会の良さなのだという事を痛感した一年でもありました。今後この同窓会が心の財産なのだという事を少しでも皆様にお伝え出来ればと願って共に努力して参りたいと願っております。一六年度は二年後の五十周年に向けての歴代会長による準備がスタートする予定です。

真理茂会

真理茂会
会長
山屋 俊恵
（真21）

二〇一五年は真理茂会にとりまして新しい変化の年となりました。活動再開以来、東京支部長を勤めて下さっていた前田八千代さんから、市岡牧さんへとバトンが手渡されました。どの同窓会におかれましても後任の選出というのは難しい事柄だとは思いますが、当同窓会におきましては減る一方の会員数で、かつ同窓会活動に関しましても参加される同窓生が非常に少ないというのが現状である為、役員の後任選出は非常に難しい問題でした。そのような中での今回の役員交代は、前田前東京支部長が地道な声がけを繰り返し、支部活動を継続し続けてくださった結果、快くその後任を引き継ぐ、若く新しい人材が誕生したのだと感じております。ありがとうございました。

同窓会活動としましては、会則の変更により、今回から総会の開催が四月となりました。十五名に満たない少人数での開催となりましたが、二年に一度お目にかかることの出来る同窓生の集いでもありますので、総会後は茶話会としてしばし楽しい時間を過ごしていただきました。九月の友愛セールでは、新しくお手伝いくださる申し出があり嬉しく思いました。継続の心を忘れず来年へと繋げて参ります。

みこころ会

みこころ会
会長
伊藤 康子
（み54、三英24）

二〇一五年五月一七日に「みこころ会創立一〇〇周年記念総会」と「一〇〇周年記念プログラム」及び親睦会を多くのご参加をいただき開催しました。みこころ会の一〇〇年の歴史を支えて下さった諸先輩方へ感謝申し上げ、次なる一〇〇年へ心を新たにいたしました。六月は三光会バザー参加、裾野墓参にお伺いしお懐かしいシスターズに祈りをお捧げしました。九月は宮代祭参加、十月はみこころ祭参加、総クラス幹事会、十一月の追悼ミサには約三百名がご参列下さり五三名のご逝去者を偲びました。社会福祉部は今年度も活発に活動し、十一月にアイシングクッキーの講習会、十二月にはチャリティーコンサートを盛況のうちに開催しました。二〇一六年二月は新入会員歓迎会を催し一〇一回生一一五名を会員としてお迎えしました。

一〇〇周年関連といたしまして、今年三月に「みこころ会一〇〇周年記念チャリティーゴルフコンペ」をJASH会員のご参加を得て開催、親睦を深める事ができました。

二〇一六年一〇月三〇日（日）「みこころ会創立一〇〇周年記念コンサート」を開催いたします。JASH会員の皆さまに是非お越し頂けますようお願い申し上げます。

三光会

三光会
会長
岡田江都子
（ド29、三保17）

今年度より堀容子会長のあとを引き継ぎ会長をさせて頂くこととなりました。役員一同が新しい顔ぶれとなり、心機一転、会員の代表として、力を合わせて活動して参ります。三光会の主な活動は、年次総会（四月）、ニュースレターの発行（五月）、三光会主催のチャリティーバザー（六月）、宮代祭、みこころ祭へのバザー出店（九月、十月）、専門学校主催慰霊ミサへの参加（十一月）、保育科発表会見学、三光会新入会員へのお誘い（一月）、そしてその他の福祉活動です。

三光会では二〇〇二年度から名簿を発行せずに、役員で名簿管理をしております。専門学校は、二年という短い期間ですが、御縁があって共に学んで参りました。学校存続の為にも、新入会員の減少に微力ながら歯止めをかけたいと思っております。

今年三月に、一九四七年に聖心女子学院英語専攻科として始まった英語科が終了致しました。四月二十三日には、ゴミサ・茶話会を予定しておりますので、多くの卒業生の方に来て頂ければと思っております。

三光会の会員であると同時に、世界中に広がっている聖心同窓会の一員であるという幸せや絆、そして誇りを一人一人もって、活躍して行って頂きたいと願っております。

語学校・ISSHアルムネ

語学校・ISSHアルムネ会長
児玉 伸子
（I'77、宮31）

今二年の任期が終わろうとしていますが、改めて振り返ってみますと本当に多くの方々のお導きがありました。初めての事ばかりで不安な日々をお支え頂いたJASHの皆様、母校のスタッフの方々、同窓生そしてこの二年を共に歩んだ五人の役員の皆様、お一人お一人に心より感謝申し上げます。

前役員より引き継いだミッションは、世界に散らばる同窓生を繋げること、そして若い同窓生への積極的なアプローチを行うことでした。そのためにインターネットでの活発な情報配信と積極的な対話の場の提供を行いました。また同窓生同士の繋がりや関心をより強くしてもらう事を目的として、同窓生紹介コラムなども始めました。年に一度の同窓会には同窓生のゲストスピーカー（牟田口靖子様、国谷裕子様）をお迎えし、直接お話を伺う機会を設けました。同窓会のフェイスブック会員数は着実に増加し続けています。

残された課題はまだ多くありますが、次期役員のフレッシュなアイディアにバトンを託したいと思います。これからも同窓生同士の交流が益々深まり、若い同窓生にも支持され、皆が誇りを持てる同窓会になっていく事を願っております。

宮代会

宮代会会長
高島 英里子
（小み48、宮30）

二〇一五年四月より傍士前会長の後を受けて宮代会会長に就任いたしました。会員の皆様が発揮してくださる聖心スピリットの素晴らしさを実感し、温かいご指導とご協力に支えられながら同窓会活動を進める事ができました。宮代会は昨年も聖心女子大学震災復興チャリティデー参加、宮代祭、追悼ミサ、総会など大きな行事がございましたが、理事・幹事を中心に沢山の同窓生の協力を得て滞りなく終了いたしました。留学生昼食会開催や奨学金給付、学術助成金を通し母校を支援、年末には各種団体に援助金の寄付をいたしました。宮代会は毎年約五百名の新会員を迎え年々大きくなる組織です。「会員の親睦」「母校への協力」「社会への貢献」の三本柱を中心に活動する中、受け継がれてきた聖心の伝統を大切に、これからの時代に合う同窓会作りを目指していきたいと思います。

二〇一六年度の宮代祭は九月十日（土）に開催いたします。昨年度同様、姉妹校の皆様のご参加をお待ちいたしております。会員交流のための色々な行事やお知らせを随時ウェブサイトに掲載いたしております。JASH会員の皆様にも是非ご覧頂きたいと願っております。

ドゥシェーン会

ドゥシェーン会会長
大竹 奈穂子
（ド21、宮29）

今期役員十六名は、不二聖心の応援団として、学院との連携を保ちながらできる人ができる場所で無理をせず工夫しながら楽しく活動をしております。昨年五月総会第二部では社会で活躍する同窓生によるパネルディスカッションが行われ、家庭と仕事のバランスを取りながら社会に貢献する姿を聞くことができました。また夏には会員皆様のご協力により、聖マグダレナソフィアのご像とマーテルのご像を学院に寄贈することができました。在校生には美しいご像を通して聖心のスピリットに触れて貰えればと願っています。九月には学年幹事会、バザーのためのグッズ開発と製品化をし、宮代祭、秋のつどいに参加、HPリニューアルや追悼ミサのお手伝いに伺いました。また昨年パリで行われたCOP21会議期間中にユネスコスクール日本代表として学院が招かれたことから、現在不二の自然と祈りを小さな写真集にする作業を不二父の会との連携で行っています。次期役員への引継ぎにも入りますが、フィリピン・デュシェーン生誕二五〇年を迎えるにあたり学院や同窓会のHP、フェイスブックなどを時々ご覧頂き、引き続き皆様の厚いご協力を宜しくお願いいたします。

小林みこころ会

小林みこころ会会長
津田 由貴
（小み47）

小林のロザリオヒルに同窓会館が建設されて一九年、今年度も新役員がここに集まり楽しく活動しております。東京支部役員も関東在住の会員を束ね絆を大切に努めています。

本年度は、学院と宝塚市の共同プロジェクトが実現し、校舎が一般公開されました。チェコのアントニン・レーモンド設計の建物が現存し、しかも校舎として現役であることは大変貴重なことです。同窓会は、お茶室でお接待させていただきましたが初めて知ることも多く学院の歴史を再認識いたしました。

十一月の追悼ミサでは、御遠方のご遺族の方々も多数ご参列くださいました。大切な方の青春時代に思いをはせながら心を一つにして追悼の祈りを捧げることができました。

国際交流では、オーストラリアの高校生に日本文化の紹介として書道体験とお琴を楽しんでもらいました。

十二月のクリスマスバザーは学院の校舎をお借りして同窓会が主催するビッグイベントです。同窓生のお店は多彩で大賑わいですが、何より嬉しいのは懐かしい方々との再会を喜ばれる皆さんの笑顔です。

これからも様々な行事を通じて皆様に素晴らしい出会いがあることを期待しています。

International School of the Sacred Heart

What is it that makes Sacred Heart special?

We are a school that:

- Inspires hearts and minds
- Nurtures a passion for learning and zest for life
- Prepares women for the world
- Provides wise freedom to encourage responsible choices

The journey begins here - come and see for yourself.

Believe · Learn · Connect · Serve · Grow

4-3-1 Hiroo, Shibuya-ku, Tokyo 150-0012 TEL: +81-3-3400-3951 info@issh.ac.jp www.issh.ac.jp

日本国内の聖心姉妹校のフェイスブックページをご存知ですか？ぜひご覧ください。

学校法人聖心女子学院教育ネットワーク
Sacred Heart Seven Sister Schools

https://www.facebook.com/SeishinNetwork

「共生」「姉妹校連携」「東日本大震災」
「児童・生徒・学生募集」を
キーワードとして7校の情報を発信しています。

聖心女子大学

英語英文学
日本語日本文学
哲学
史学
人間関係学
国際交流学
心理学
教育学
初等教育学
大学院
修士課程/博士前期課程
博士後期課程

http://www.u-sacred-heart.ac.jp
https://www.facebook.com/SeishinDiary

札幌聖心女子学院中学校・高等学校

2014年度より
文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」指定校

少人数だからこそできる、一人ひとりに目が行き届く家庭的な教育。
札幌聖心の英語教育や課題研究の実績を生かし、英語のコミュニケーション能力と豊かな国際感覚を身につけた生徒を育て、国際社会と地域社会に貢献する女性の育成を目指します。

ソフィア・サイエンスクラス 定員40名
グローバルクラス 定員20名

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

※敷地内に寄宿舎を完備。学校・寄宿舎の見学は随時可能です。事前にご連絡ください。

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条6丁目10-1
TEL.011-611-9231 FAX.011-612-0980
説明会等の日程はホームページをご覧ください。
札幌聖心 検索

学校法人聖心女子学院
不二聖心女子学院 中学校・高等学校
Fuji Sacred Heart School Junior High School & High School

富士山の裾野に広がる広大なキャンパス
4割が寄宿生。14都府県から生徒が集います。
帰国生の転編入も積極的に受け入れています。
※公開行事・説明会の日程はホームページをご覧ください。 不二聖心 検索

聖心女子学院

「多様に グローバルに より良く生き抜く」
変化に満ちた今の世界をより良く生き抜く、
一人ひとりの生きいきとした力を育てます。

初等科１年入試
2016年 11月 1日(火)
初等科５年転入・編入試
2017年 1月14日(土)
中等科１年帰国生入試
2016年 12月21日(水)

＊学校説明会・授業公開・公開行事にご参加いただけます。
詳細は本校ホームページにてご確認ください。
URL http://www.tky-sacred-heart.ed.jp

小林聖心女子学院　小学校・中学校・高等小学校

Big You, small i

心を磨く 12 年間の一貫教育

◆入試情報

小1入試	A日程	2016年10月 3日(月)
	B日程	2016年10月29日(土)
小転編入試		2017年 1月14日(土)
中1入試	A日程	2017年 1月14日(土)
	B日程	2017年 1月15日(日)
中高帰国子女入試・転編入試		2016年 7月 1日(金)
		2017年 1月10日(火)

説明会や公開行事についての情報は、本校 WEB でお確かめください。
ブログ、フェイスブックも日々更新中。 小林聖心 検索

〒665-0073 兵庫県宝塚市塔の町 3-113 TEL：(0797)71-7321 FAX：(0797)72-5716
WEB：www.oby -sacred -heart.ed.jp www.facebook.com/ObayashiSeishin

聖心女子専門学校
保育科

2年間で幼稚園教諭二種免許、保育士資格同時取得可

◆実践力を重視した教育課程を編成して保育者としての力を養います。
◆大学・短大の既卒者・社会人経験者多数在学中。
◆文部科学省指定・厚生労働省指定

※ 聖心女子専門学校では、平成27年度入学生から、英語科の募集は行っていません。

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1
TEL 03-3442-8649
URL http://www.sen-sacred-heart.ac.jp

2015年度 JASHの1年

1. 役員会　定例役員会　毎月　第2火曜日　全11回
臨時役員会　随時開催

2. 理事会　隔月 第3火曜日　全6回

3. 会長、副会長の各同窓会総会等出席（10回）

4. JASHスタディグループ（2015-2018）
第1回ミーティング（10月27日）
第2回ミーティング（ 2月23日）

2015年度理事

5. プレゼンテーション
宮代祭（9月12日）
みこころ会新入会員歓迎会（2月16日）

6. 登録ボランティアの活動
古切手処理（随時）
学校法人理事長によりボランティアプロジェクト翻訳原稿（英語部門）製本、寄贈
「JASHの日」準備・当日進行・後片付け（3月14～15日）

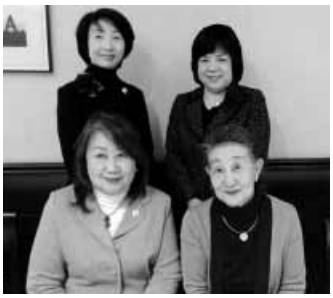
7. JASH主催行事
第30回「JASHの日」（3月15日　於 聖心女子大学）

8. その他
AMASC　Newsletterへの寄稿（8月12日）
Sr. Carolyn Osiek RSCJ 研修会参加（1月16日）

JASH役員交代

退任役員（任期満了のため）

副会長	崎川由美子	（み49・三英19）
書　記	唐澤　明子	（み67・宮36）
会　計	中山　宏子	（小み44）
監　事	岩田友美子	（茂9・宮31）


退任役員

2016～2017年度役員（＊新役員）

会　長	中山　洋子	（み51）
副会長	原科　節子	（み51・宮20）
	＊小澤志津子	（み57・宮26）
書　記	赤松　久子	（み60・宮29）
	＊佐々木麗子	（宮41）
会　計	汐見久美子	（ド19）
	＊六本木真美	（小み52・宮34）
監　事	林　美穂子	（I ‘88・宮42）
	＊中川　和子	（I ‘77・宮31）

2016年度役員

イラスト　児島なおみ©

「JASHの日」講演要旨

フランス女子教育における修道院寄宿学校

山内由賀（小み77、宮59）
日本学術振興会特別研究員、京都大学大学院生
第９回さくら奨学金奨学生

フランスの女子中等教育は、1880年のカミーユ・セー法によって女子リセやコレージュが設立されるまで、女子修道会あるいは世俗女性の経営する寄宿学校に委ねられていました。男子に対しては、中世末期から国家主導の下ユニヴェルシテやコレージュが設立されていましたが、女子教育は常に私的領域にて行なわれるものとされ、女子修道会の運営する寄宿学校、いわゆる修道院寄宿学校が17世紀から見られる伝統的な女子教育の形態として女子教育を担っていたのです。

しかし、1789年のフランス革命は「非キリスト教運動」を展開し、教育に従事していた女子修道会も閉鎖を余儀なくされました。1801年にナポレオンとヴァチカンが政教条約を結んだことで、カトリック教会はフランス国内で再び活動し始めますが、閉鎖された修道院が本格的な回復を見せ始めるのは、カトリックを再び国教に認可した1814年からの復古王政期のことです。1820年頃には革命以前の代表的な教育修道会であったウルスラ会やベネディクト会が再興し、聖クロチルド会などの新たな修道会とともに女子教育に携わっていました。

1800年創立の聖心会は他の女子修道会復興期に先駆けて発足したため、カトリック教会から女子教育の旗手としての支援を惜しみなく受け、国内外に広く発展することになりました。1852年から始まる第二帝政期には、聖心会を始めとする女子修道院寄宿学校が隆盛期を迎えます。その理由としては、女子教育が国家によって整備されなかった制度的要因に加え、有徳な女性を形成するために宗教教育が重要であるという社会的認識が挙げられます。さらに、カトリック教会側も女子教育の中に革命後の社会の再キリスト教化を担わせる意義を見出していました。

こうして修道会は女子教育の道を開いていきますが、先駆者であった聖心会の発展も必ずしも順風満帆ではなく、復古王政期にはカトリック教会優遇措置に対する反キリスト教運動の激化によって、いくつかの修道院が閉鎖されたりしました。しかしこれらの危機はいずれもソフィー・バラの尽力によって終息し、聖心会は1850年代にヨーロッパ諸国をはじめとする外国へ拡大し、安定期を迎えたのです。

聖マグダレナ・ソフィア・バラ関連出版物

●日本語

① 三好切子著　『聖マグダレナソフィアの生涯』　毎日新聞社
② 児島なおみ著　『聖マグダレナ・ソフィア・バラ』　偕成社
③ モニーク・リュイラー著、里見貞代訳
『聖マグダレナ・ソフィア・バラ（1779－1865）
世のただ中でキリストのみこころを生きる教育者』　聖心会
④ フィル・キルロイ著、安達まみ、冨原眞弓訳
『マドレーヌ＝ソフィー・バラ　キリスト教女子教育に捧げられた燃ゆる心』　みすず書房

●英　語

① Williams, Margaret著
“The Society of the Sacred Heart:　History of a Spirit, 1800-1975”
“Saint Madeleine Sophie, Her Life and Letters”
② Solari, Constance著
“Sophie's Fire,　The Story of Saint Madeleine Sophie Barat”

ソフィの遺産、世界への贈り物
～聖マグダレナ・ソフィアの遺されたもの～

「JASHヤングアラムネの集い」講演録

Sophie's Legacy

児島なおみ（み54）

1987年、三光町聖心女子学院80周年を翌年に控えて、小学校1年生にも読める創立者聖マグダレナ・ソフィアの本を書いてほしいと依頼を受けた。卒業生として創立者についてあまり知識のない事に気付き、依頼されたシスター推薦の資料を読む事から始めた。当初は絵本作りの基本の32ページに全てを凝縮する事を目指したが、準備を進める内に思い描いていた聖女のイメージが変わり子供たちに伝えたい事が増え、編集者の了承を得て56ページに増やした。絵本では文字以外に、絵の細部によって情報を伝える事もできるが、文章を作成し絵と組合せ、限られたスペースに割振るという作業は、絵本作家にとって楽しみと悩みの相半ばする過程となる。

第一章では聖マグダレナ・ソフィアの明るく活発な少女時代と神との出会いを描き、第二章では修道女となり子供たちに教える喜びと、祈りを通して神との対話に心の安らぎを得る日々、更に修道院長となって聖心会のために力を注ぐ年月の中で、会と学校の発展を可能にした聖女の人間性、愛と喜びを子供たちに分かりやすい言葉で伝えたいと願った。

第三章では、日常の中で聖マグダレナ・ソフィアが全てのものに惜しみなく与えた愛について描いた。中でも幼い子を愛し、「悪い子」のレッテルを貼られた子に特に目を掛ける姿が、自らの母校での経験に照らして、創立者の望まれた聖心の教育を再認識する機会となった。

聖心会総長として数々の困難を乗り越えた創立者は、支配するのではなく、神に対する絶対の信頼を持って祈り、人の意見に耳を傾けつつ時の満つるのを待つ事によって統治された。その姿から、神との対話の中で得る直観こそが聖霊の働きであると理解し、絵本作りも作者一人の力でなく、聖霊の導きがあって初めて可能となる事に気付かされた。

創立者の望まれた、自分で考え判断し行動することができ、深い信仰と聖霊に対する信頼を以って家庭の中心となり社会に貢献する女性の育成を、今後も聖心の学校教育に望みたい。この絵本の作成を通して母校の教育を新しい目で見る事ができ、聖マグダレナ・ソフィアによって繋がる卒業生の一員である事を誇りに思っている。

JASHボランティア募集

JASHの活動のお手伝いをしてくださるボランティアを、常時募集しています。申し込みは、JASHウェブサイト「JASHボランティア募集」より

【お手伝いいただく内容】古切手の処理、パソコン入力、簡単な事務作業、「JASHの日」などイベントの手伝い、運転、翻訳、海外からの会員の案内、通訳、宿泊提供など。

古切手を集めています！

AMASCでは各国の同窓生から古切手を集め、スペインの古切手市場で換金して、AMASCの活動に役立てています。皆様の協力により集まった切手は、ボランティアが封筒から剥がし、きれいにラッピングして、箱一杯に詰め、毎年スペインに送っています。地道ですが、AMASCにつながる活動です。ご協力をお願いします。

使用済切手の周囲5ミリほどを残し、JASH事務室までお送りください。

宮代祭
JASHの部屋

バザーの様子

JASH掲示板

September

写真で綴る 2015

JASHの1年間

参考書籍

スタディグループ
ミーティング

October

ヤングアラムネの集い

資料委員会活動風景

講演・総会

「JASHの日」

理事会 活動風景

茶話会

March

展示

発行日 2016年3月31日
発行所 日本聖心同窓会(JASH)
発行人 中山 洋子
編　集 JASH役員
制作 (株)梁プランニング
住所 東京都渋谷区広尾4-3-1　聖心女子大学 JASH事務室
FAX 03-3407-0671